

# 七三だより 臨時号

## 第2回学校評価結果

学校教育目標  
未来を拓く ～やさう！ なりたい自分～  
自ら学ぶ子 課考める子 協力する子

令和7年3月19日  
京都市立七条第三小学校  
校長 中野 真吾

大変お忙しい中、第2回学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。結果についてまとめましたので、お知らせいたします。

そう思う



大体そう思う



あまりそう思わない

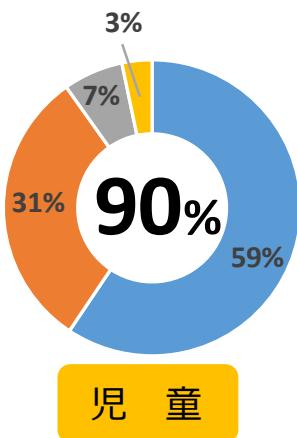


そう思わない

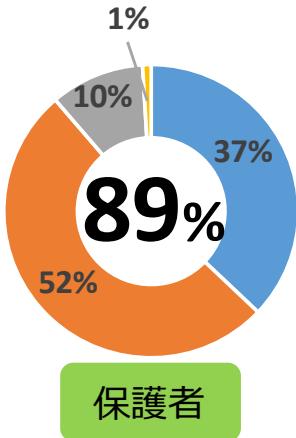


### 学校は楽しい

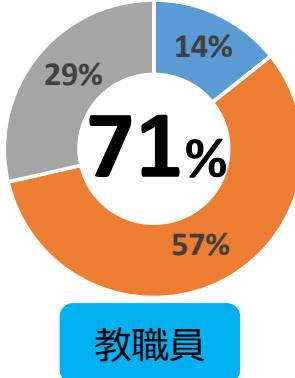
(教職員：学校生活のあらゆる場面において、子どもが主体的に取り組める活動を意図的に行っている。)



児童



保護者



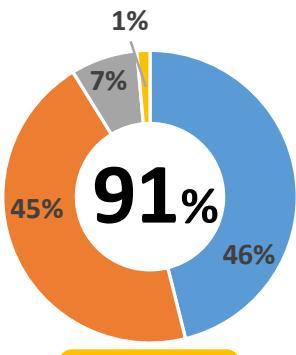
教職員



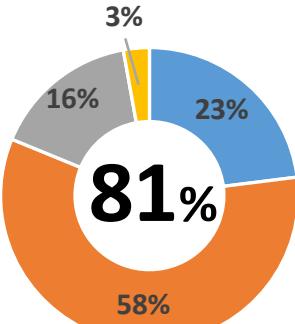
「学校生活をより良くするため、七三小がみんなにとってより楽しい学校になるためにはどのような委員会活動を行えばよいか。」を考え、既存の委員会活動にとらわれず自分たちで一から作り上げる取組を進めてきました。今年度も各委員会から子ども目線の楽しい企画がたくさん提案されています。高学年が主体的に取り組む姿が、低・中学年の学級内での係活動にもよい影響を与えるようになってきました。『自分たちの学校を自分たちで作る。』という姿勢が育ってきていることが、今回の評価にもつながっていると考えられます。

### 授業は楽しくよく分かる

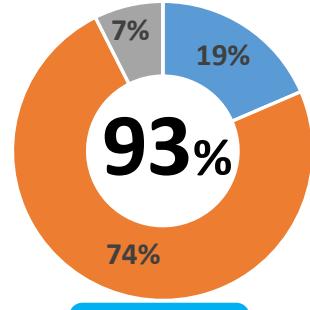
(教職員：基礎・基本の学力の定着を図る取組を行っている。)



児童



保護者

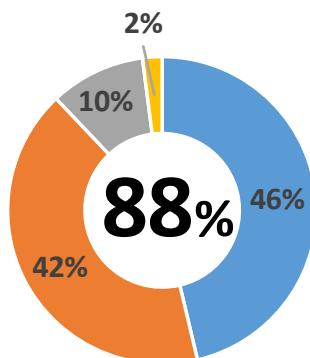


教職員

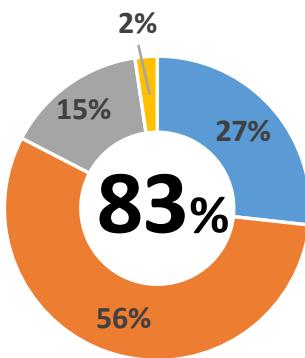
学校生活の中で一番長い時間を占めるのが授業の時間です。その授業の時間を子どもたちが「楽しくよく分かる」と肯定的に評価していることを嬉しく思います。今後は教師が一方的に教える形から、子どもたちが主体的に学ぶ「学習者主体の授業」へと変化していくことが求められます。児童が自ら問いを立て、仲間と協働しながら学びを深める機会を増やすことで、単なる理解にとどまらず、思考力や判断力、表現力を育んでいきたいと思います。

# 授業中、進んで学習に取り組んでいる

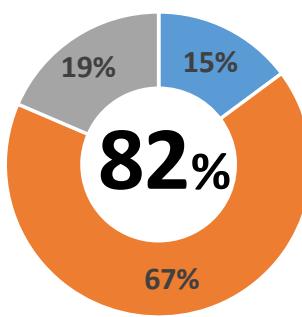
(教職員：子どもたちが主体的に学ぶ授業の工夫を行っている。)



児童



保護者



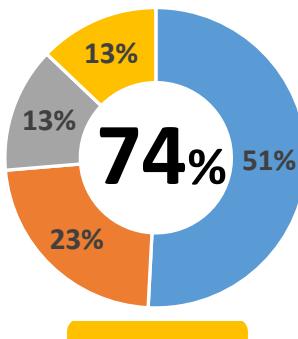
教職員



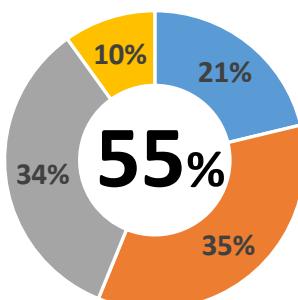
「授業の楽しさ」や「分かりやすさ」は一定の評価を得ているものの、子どもたちが主体的に学習に取り組む姿勢には、まだ改善の余地があることがわかります。特に、教職員の評価が前項目と比較すると低めであることから、授業中に子どもたちが自発的に学ぶ場面が十分に確保されていない可能性が考えられます。今後は、「学習者主体の授業」へと授業デザインを変えていくとともに、子どもたちが選択・意思決定する機会を増やしていくことで学習に対する自主性を養っていきたいと考えています。

## 読書は好きですか

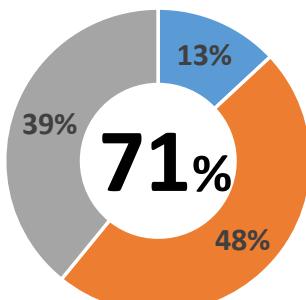
(教職員：読書が好きになるように、工夫を行っている。)



児童



保護者



教職員

本校の学校評価において、「読書は好きですか」の項目は毎年低く、今回も児童については、約70%弱と他の項目と比べて低めの評価となっています。学校では親子読書週間や委員会活動による読書スタンプカードなどの取組を進めており、子どもたちが本に触れる機会を増やす工夫をしているものの、大きな改善にはつながってはいません。ゲームやYouTube、SNSなどのデジタルコンテンツが身近にあり、読書に時間を割く動機が弱いということも評価が低い一因かもしれません。読書は語彙力を向上させるために有効です。読書が好きな子どもが増えるようご家庭でもお声がけいただければと思います。



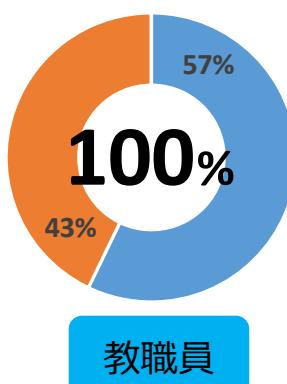
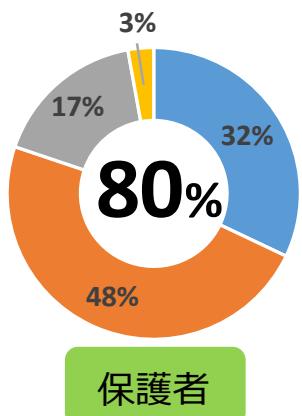
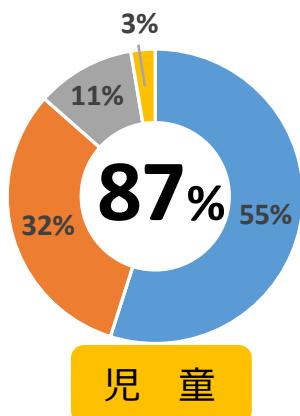
七条第三小学校  
携帯サイト  
QRコード

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で  
**「京都はぐくみ憲章」を実践しましょう!**



# 自分から進んで挨拶をしている

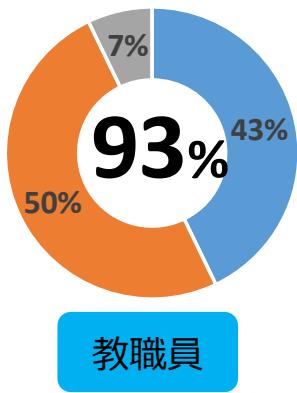
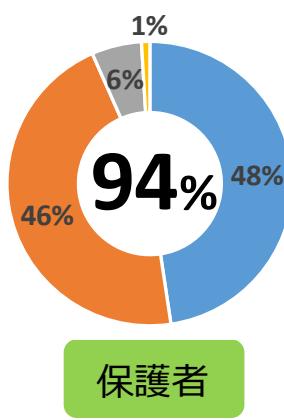
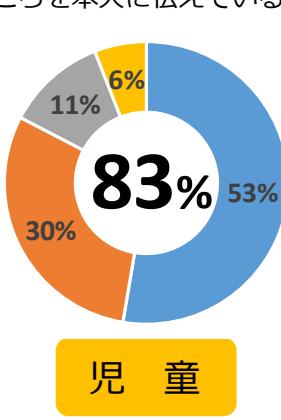
(教職員：子ども・地域・保護者へ自ら進んで相手に届く挨拶を行い、範をしめしている。)



児童・保護者の「そう思う」「大体そう思う」の合計の差が小さくなっています。今年度は、児童会本部を中心となって、他校の取組を参考にした新しい『あいさつ運動』(季節に合わせた仮装をしたあいさつ運動)に取り組んだり、各学年にあいさつボランティアを募集したりするなど、挨拶を活発化するためにたくさん頑張ってくれました。取組を進める中で、児童会本部の子どもたちも「挨拶を返してくれる人が増えてきた。」と成果を実感しています。

# 自分には良いところがある

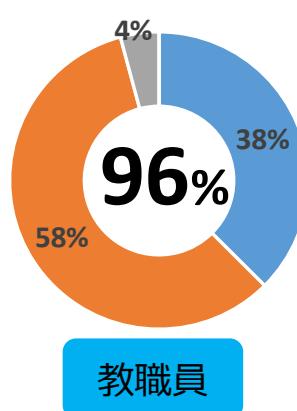
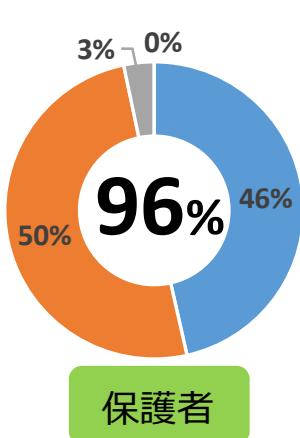
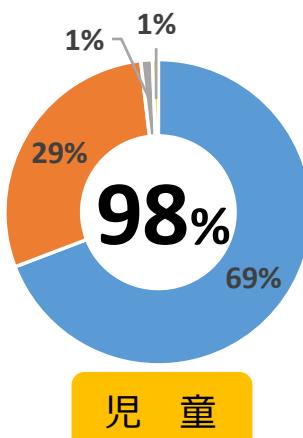
(保護者・教職員：子どものよいところを本人に伝えている。)



# 友達や周りの人を大切にしている

(保護者：お子さんは、友だちや周りの人を大切にしていますか。)

(教職員：一人ひとりを徹底的に大切にする学級づくりを行っている。)

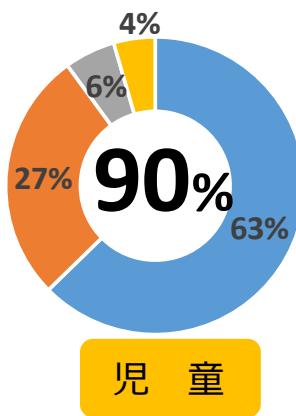


本校では「自分も人も大切に」ということを大切にしています。今回の学校評価アンケートの結果から、児童は「友達や周りの人を大切にしている」という意識は高い一方で、「自分には良いところがある」と感じている割合が、保護者や教職員の評価と比べて低いことが分かりました。大人は「子どもの良いところを伝えている」と思っていても、子どもたちがそれを十分に受け取れていないかも知れません。「自分も人も大切に」という本校の大ににする価値観をさらに実践していくために、児童が自己肯定感を高め、自分自身の良さを実感できるような取り組みを続けていきます。

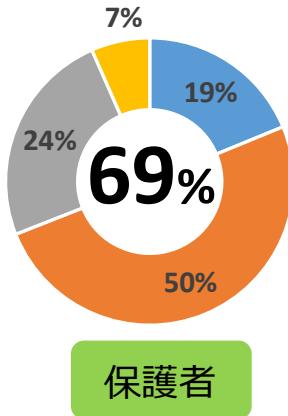
## スマートフォンやタブレットなどを使うときのルールや約束を守っている

(保護者：家庭では、スマートフォンやタブレット等の情報端末を使う際のルールを定め、お子さんは守ることができますか。)

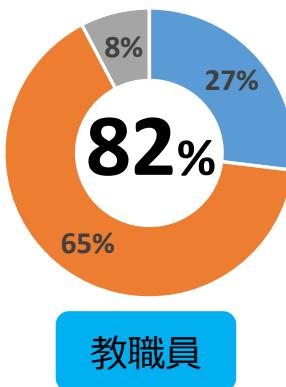
(教職員：GIGA 端末を使用する際に、情報モラル教育やデジタルシチズンシップ教育を意識している。)



児童



保護者



教職員



児童と保護者の中で、スマートフォンやタブレットの使用ルールに対する認識の差があることが分かりました。ルールの具体化や明確化を行い、定期的な振り返りの機会を設けることが重要ではないでしょうか。学校においても情報モラル教育やデジタルシチズンシップ教育を通じて、児童がルールを守る意識を高める取り組みを進めることが必要だと考えています。

本校では、年間指導計画の中で情報モラル教育やデジタルシチズンシップ教育を位置づけて取り組んでおり、次年度からは高学年を対象に生成 AI に関する情報モラル教育も実施する予定です。これにより、児童がより適切にデジタル機器を活用し、責任ある使い方を学ぶ機会を強化していきます。家庭と学校の連携によって、児童が安心してデジタル社会を生きる力を育めるよう、継続的に取り組みを進めていきたいと思います。



今年度も本校学校教育推進に向けて、ご理解ご協力をいただきありがとうございました。

この学校評価の結果をもとに、課題については真摯に受け止め、次年度も子どもたちが楽しく学校生活をおくることができるよう、全教職員で一丸となって子どもたちの学びと成長を支えていきたいと思います。これからもご支援よろしくお願いいします。

お忙しい中、令和6年度第2回学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。紙面の都合上、全項目について紹介できませんでしたが、今回のアンケート結果は次年度の学校運営及び教育活動にいかしていきます。